**前説**

令和2年4月23日　小林

　前回3月の研究会では、日本古来の神の概念からはじまって、伊勢神宮の起源やキリスト教解禁、そして国家神道の成立などについて、歴史の大きな流れの中で報告しました。

　今回は、島薗教授(上智大)の著書にもとづいて、国家神道に焦点をあてて報告します。特に、1920年の明治神宮の創建に関した部分についてのみ報告します。島薗は、明治神宮の創建が国家神道の成立ということにおいて、歴史の転換点であったと見ています。NHK風に言えば、「その時、歴史が動いた」です。

　したがって、資料を読むときには、テレビ映像を想像しながら読んでいただくのも一興かと思います。参考になる写真は何枚か貼り付けてあります。

　今回は、国家神道成立の歴史を明治神宮という切り口で概観するわけですが、この歴史からコンプライアンスに関係した教訓を学ぶことができるのではないかと思っています。その部分については、アンダーラインを引いています。

　なお、今回の著書を読んで石橋湛山という人物を知ることができたのは、一つの収穫でした。筑紫哲也や田原総一朗、江川紹子その他多士済々の早稲田ジャーナリズムの基礎をつくった人(？)であると同時に、首相にまで登りつめた保守政治家としての面も持っているという、とても興味ある人物のように思われます。図書館が再開したら彼についての本を読んでみようと思っています。

以上